

## 特別養子縁組における養子のための母子面会交流について

ここまで日本の現在の状況について説明してきました。現在の日本の状況だと ひとたび特別養子縁組が成立してしまうと生母と子供の関係性は完全に途絶えてしまい 母親は子供の姿をもう二度と見ることはできません。そして母親は子供と連絡を取ることができず喪失感を抱えたままで無為に歳月が過ぎてしまいます。そして子供が母親と会いたいと願った時にはあまりにも歳月が経ちすぎてしまい 母親と面会することが困難になってしまいます。子供は母親と会えないので仕方なく母親についての情報を探します。しかしその時にはあまりにも歳月が経ちすぎてしまい情報が廃棄されてしまいわずかな情報しか得ることができません。現在のこの状態は 1970 年代の米国の状態と酷似しています。しかし米国はここから盛り返したとえ特別養子縁組したとしても母子の交流は閉ざさずに面会交流を続けるという方法 (open adoption と呼びます) を編み出しました。これにより子供はたとえ細い線であっても母親と連絡がとれているので母親を探す必要がありません。委託に至った状況についても母親が子供を傷つけないように説明してくれます。子供には二人の母親がいてどちらの母親も子供のことを大好きでいられます。生活は別々であっても心は繋がり続けていられます。そこでここから先は米国の特別養子縁組制度について学術的な背景から解説を加えながら紹介してゆくことにいたします。

### 【 子供の知りたいは日本も米国も変わらない 文献的考察を中心に 】

ほとんどの養子はある一定の年齢になると自分が養子縁組に委託された理由について あるいは生母や生父あるいは生母家族について知りたいと願うようになります。さらに生母の人柄 どこに住んでいたのか 何が好きだったのか 好きな音楽 好きな料理 好きな言葉 好きな風景 など ありとあらゆる情報を知りたいと願うようになります。そしてほとんどの養子は 年齢に関係なくありとあらゆる検索手段を使って自分の養子縁組に関する情報を知りたいと考えていました。特に思春期においてなぜ生母が自分を養子縁組することにしたのかを最も疑問にしていました Wrobel GM, Dillon K. Adopted adolescents: Who and what are they curious about? In: Wrobel G, Neil E, editors. International advances in adoption research for practice. Chichester, UK: Wiley; 2009. Pp

そして養子が年齢を重ね養子縁組の意味をより理解するにつれて 養父母にさらに生父母家族のことについてもっと話をしてくれるよう質問攻めをするようになった。

Wrobel GM, Kohler JK, Grotevant HD, McRoy RG. Factors related to patterns of information exchange between adoptive parents and children in mediated adoptions. Journal of Applied Developmental Psychology. 1998;19:641-657.

若い養子の中には 生母家族の情報について満足している人もいれば もっと知りたいもっと情報が欲しいと望む人もいます。これはひとたび望ましい情報が特定されると それについてもっと知りたいという欲求の強さがさらに強まり そしてそれがさらに知りたい情報を探り出すという動機付けとその原動力になっているのではないかと報告しています

Wrobel GM, Dillon K. Adopted adolescents: Who and what are they curious about? In: Wrobel G, Neil E, editors. International advances in adoption research for practice. Chichester, UK: Wiley; 2009. pp. 217-244.

ところが養子縁組について真剣に考えているにも関わらず生母との接触が少ない養子は 養子縁組に関する情報に格差があることに気が付いてしまう可能性が高いと報告しています。

Adoptees' Curiosity and Information Seeking about Birth Parents in Emerging Adulthood: Context, Motivation, and Behavior.

*Wrobel GM, Grotevant HD, Samek DR, Von Korff L*

*Int J Behav Dev. 2013 Sep 1; 37(5):*

このことは 子供は自分が情報を十分に与えられていないのは 情報（生母）との接触を養親に遮られているからであると考えすることに繋がってゆきました。なぜ子供が情報（生母）について検索することを養親は遮るのか。なぜ養親は子供の邪魔をするのか。子供の情報を得られない不満は次第に矛先を変え養親に対する不満に変容してゆきました。

養親さんにとってはとんだとぼっちりです。養親さんは子供のために精一杯養育をしてきました。そして養親さんにだって面会や交流に対する不安はあります。子供をこのまま生母さんに接触させて大丈夫なのか。邪険に扱われるのではないか。そう考えるのは当然です。そしてそれが生母さんとの接触を制限することに繋がってゆきました。米国もかつてこのような問題を抱えていました。

成人初期に達すると それまで生父母と直接接触することができている養子は質問の内容が基本的な内容から 生父母の医学的情報に移行してゆきました。しかしそれまで生父母の情報に接触することのなかった養子は そこからやっと 生父母はどんな様子であったのか どこに住んでいたのかなど 基本的な情報について多くの質問をするようになりました。

Adoptees' Curiosity and Information Seeking about Birth Parents in Emerging Adulthood: Context, Motivation, and Behavior.

*Wrobel GM, Grotevant HD, Samek DR, Von Korff L*

*Int J Behav Dev. 2013 Sep 1; 37(5):*

生母に関する情報を収集するファシリテーター（世話役）には 養親も含まれています。情報収集を阻害する要因には資金不足があります。

Adoptees' Curiosity and Information Seeking about Birth Parents in Emerging Adulthood: Context, Motivation, and Behavior.

*Wrobel GM, Grotevant HD, Samek DR, Von Korff L*

*Int J Behav Dev. 2013 Sep 1; 37(5):*

ところが養親がいくら情報（生母）との接触に制限をかけても結局はルーツ探しをすることになるのです。どれだけ拒絶しても最終的にはルーツ探しをすることになるのです。断ってもそれはルーツ探しの時期が遅くなるか早まるかの違いしかありませんでした。しかもルーツ探しには養親さんの経済的協力が不可欠になります。ルーツ探しを断ってもごねられた挙句の果て結局協力させられることになるだけでなくお金までむしり取られるのです。

養子と交流をしなかった生母よりも 養子と交流すると決めた生母の方が 養子縁組について取り交わした約束について満足していました。養子が生母と満足に交流することは 思春期から成

人期初期の養子にとって適切な精神の安定性をもたらしています。養子縁組に関連する（生母との交流も含めた）養子家族とのコミュニケーションは思春期から成人初期の養子にとって『自分は何者であるのか』というアイデンティティの確立に役立っていました。

Contact Between Adoptive and Birth Families: Perspectives from the Minnesota Texas Adoption Research Project

[Harold D. Grotevant,](#)

Child Dev Perspect. 2013 Sep 1; 7(3): 193–198.

これらの報告に裏打ちされるよう いくら養親さんが情報（生母）との接触を遮断しても 結局は子供はルーツ探しをすることになるのです。しかもごねられた挙句にお金までむしり取られるのです。そこで米国の養親さんは方針をかえることにしました。今度は積極的に子供と生母さんを面会させるようにしたのです。すると会いたくて仕方なかった生母さんは子供と会うことができるようになりますので養子縁組に対する満足度が飛躍的に向上しました。それだけでなく子供が生母と交流することは子供の人格的な安定性をもたらし自分のアイデンティティの形成に役立つことが分かってきました。

open adoption で養子縁組された養子達は semi-open adoption（仲介者を介した交流）や closed adoption（交流のない養子縁組）と比較してそれほど困難な経験をする事がなかった

Openness arrangements and psychological adjustment in adolescent adoptees.

Von Korff L, Grotevant HD, McRoy RG

J Fam Psychol. 2006 Sep; 20(3):531-4.

open adoption による接触の取り決めにはかなりのばらつきがあるため 単純な群間の比較検討(例えば open adoption と closed adoptions)はあまり有用ではありません。しかし養子縁組における接触の取り決めについての満足度は 養子の問題行動の減少と確実に相関していました。

Post-adoption contact, adoption communicative openness, and satisfaction with contact as predictors of externalizing behavior in adolescence and emerging adulthood.

Grotevant HD, Rueter M, Von Korff L, Gonzalez C

J Child Psychol Psychiatry. 2011 May; 52(5):529-36.

そして次に検討されたのが面会や交流の開放度についてです。母親と子供が直接面会したり交流する養子縁組様式（open adoption）は 仲介者を介した面会交流様式（semi-open adoption）や現在の日本のような親子の面会交流を閉ざしてしまう養子縁組様式（closed adoption）と比べて思春期の子供に望ましく子供の問題行動の減少に役立っていると報告しています。

現在の日本には open adoption に相当する面会様式はありません。semi-open adoption に相当する面会様式は離婚家庭における親子面会交流や里親家庭における母子面会交流 あるは普通養子家庭における母子面会交流に相当します。closed adoption は現在の特別養子縁組家庭に相当します。

このことから 養子縁組のより望ましい形態として open adoption があげられます。しかし生母の妊娠に至った経緯や 生母の精神状態によっては 必ずしも open adoption だけが適切になるわけではありません。母親にも心の傷を癒す必要があります。最初から直接子供と母親が面会交流するのが適切とは思いません。しかし状態が落ち着けば open adoption に移行してもいいと思います。これ

はこれからの検討課題になると思います。

現実的な導入策としては **semi-open adoption** が挙げられます。日本では既に離婚家庭や里親家庭や普通養子家庭において母子面会交流が実施されています。これと同じ面会様式です。実績もあります。現在実施されている面会様式です。適応を広げるだけです。ジャンルが異なるとはいえノウハウも蓄積されています。比較的導入しやすいのはこの様式だと考えられます。

また **semi-open adoption** には次のような利点もあります。生母さんにパーソナリティ障害やトラウマへの適応障害 問題のあるコミュニケーションがあれば 支援者が間に入ることで支援者が生母さんの問題に対応します。そして支援を受けながら交流ができます。

遺棄児の場合だけはどうしても生母が探せないので **closed adoption** になります。